

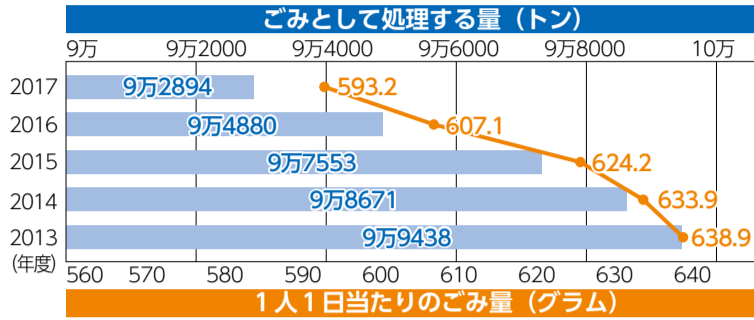
あなたからはじまる40%のごみ減量

夏の
ダイエット
プログラム

町田市の肥満度(ごみ量) 要生活習慣改善

2017年度の町田市の「ごみとして処理する量」は9万2894トンで、前年度に比べ1986トン減少しています。人口は増えていますが、ごみは減ってきています。

問題ないようにも見えますが、このペースでは40%の減量目標達成は黄色信号です。

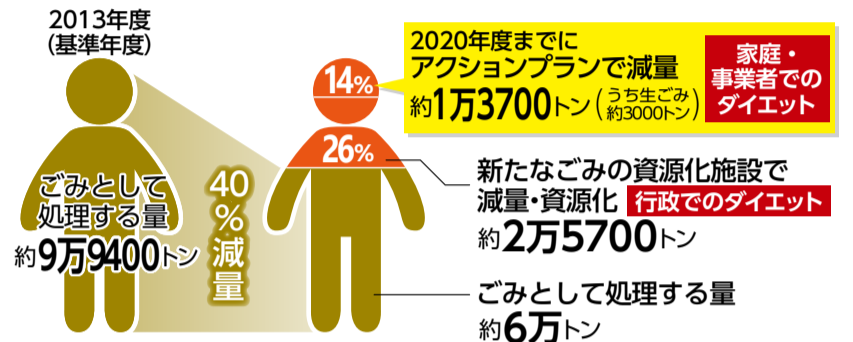


※ごみとして処理する量=燃やせるごみ、燃やせないごみ、事業系ごみ等の合計

合言葉は「1人1日ミニトマト2個分」

2015年に策定した行動計画「町田市ごみ減量アクションプラン」では、40%の減量目標のうち約14% (約1万3700トン) について、2020年度までにどう減らすかを示しています。このアクションプランのうち、家庭系「生ごみ」の減量目標は、約3000トンです。これを1人1日分の減量目標数値に置き換えると、なんとミニトマトたった2個分 (約19グラム) でいいんです。

市HP 減量アクションプラン 検索



減量するなら“今” ~3つの理由

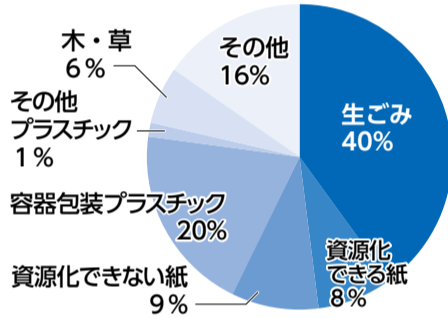
1. 町田市は減量が苦手?

1人1日当たりの燃やせるごみの収集量は、多摩地域26市中9番目に多くなっています ([公財] 東京市町村自治調査会「多摩地域ごみ実態調査」平成28年度統計)。

2. 決め手は「生ごみ」

燃やせるごみの中でも生ごみの占める割合は一番多く、約40%を占めています。

市内の燃やせるごみ組成調査 (2013年度~2017年度平均)



3. 将来はもっとピンチ?

世帯人数が少ないほど1人1日当たりのごみ量は増え、さらに単身でも特に高齢単身世帯は多い傾向です。今後、高齢単身世帯の増加により、生ごみに加えて調理済み食品や弁当のプラスチックごみも増えていくことが考えられます。

達成するには 家庭・行政でのダイエット が効果的です!

家庭でのダイエット

14%

まずは…

STEP1 生活スタイルを変えて「食品ロス削減」に挑戦!

本来食べられるのに捨てられてしまった食品のことを「食品ロス」といいます。町田市の生ごみの年間排出量のうち、約15%が過剰除去 (食べられる部分も捨ててしまうこと)、約10%が食べ残し、約5%が期限切れ等の食品です。町田市の食品ロスの発生量は、年間約9000トン。「買い過ぎない、食べ残さない、作り過ぎない」を習慣にしましょう。

ごみが出たら…

STEP2 「水切り」効果は半端ない!

生ごみの80%は水分。ひと絞りするだけで、8%の水分を減らすことができます。これで年間約2000トンもの削減効果があります。CDやペットボトルを使って、水分を簡単に絞り出せます。

YouTube (まちテレvol.143) で動画をチェック

それでもごみが出たら…

STEP3 「ダンボールコンポスト」を駆使せよ!

ダンボールコンポストの仕組みは、とても簡単。竹チップ、竹炭、米ぬかが入ったダンボールに、生ごみを投入するだけで分解されて、堆肥のもと (土質改良剤) になります。集合住宅でも手軽にできます。

ダンボールコンポスト講習会

参加者にはダンボールコンポスト1セットをお持ち帰りいただけます。

対 市内在住の方 (初めての方のみ)

日 8月21日 (火)、23日 (木)、午後2時30分~4時

場 市庁舎

定 各15人 (申し込み順)

申 7月20日正午~8月12日にイベントダイヤル (☎724・5656) またはイベシスコード180720Bへ。

問 3R推進課 ☎797・0530

行政でのダイエット

26%

STEP1 生ごみのバイオガス化施設建設中

生ごみを15日間程度発酵させて、メタンガスを発生させ、ガス発電機で電気を作り、ごみをエネルギーに変えます。また、ガス発電機の廃熱を利用して温水を作り、工場内で利用します。

発酵槽

微生物の力を使ってガスを作る

STEP2 容器包装プラスチックの資源化施設

リレーセンターみなみでは、2016年4月からJR横浜線以南の地域で容器包装プラスチックの圧縮梱包機による資源化を始めています。資源化により、ごみとして処理する量が減り、ごみの焼却時に出る二酸化炭素の削減につながっています。その他の地域についても資源ごみ処理施設の整備を進め、資源化を図ります。

8月15日発行のまちだごみ情報紙「ごみナクナレ」では、壊れたおもちゃを修理するボランティア団体「おもちゃ病院まちだ」の活動を紹介します。



分別はもちろん大切ですが、その前に出さないことも大切。一人ひとりができることを実践すれば、目標達成はぐっと近づきます。